

山田みやこの活動報告

令和7年3月21日(金)

長野県諏訪市において全国で初めて開催された「避難所」の実働訓練に参加
(3/20 5:47に諏訪市を震源とした直下型の地震が発生 マグニチュード7.3を想定した訓練)
100年経っても変わらない日本の「避難所」を変えるためにイタリア式避難所システムをもとにした実働訓練

イタリアでは発災から48時間以内にあらかじめ備蓄した資機材を活用して支援拠点を設置し訓練された支援者が支援活動を行っている。

今回参加者全員が「支援者役」と「避難者役」に分かれて行った。

支援者役は、

- ①支援拠点設置 ②支援本部運営 ③食事支援 ④子ども支援
- ⑤DWA T(災害派遣福祉チーム) ⑥災害ボランティア設置

避難者役は、

仮設トイレ、仮設シャワー、家庭用テント(冷暖房付き)を利用
昼食時には「食事」の支援(無償提供)を受ける



私は、支援者役の食事支援を担当

調理はキッチンカーのプロが作り、配膳を担当。

温かい食事の提供を基本としカセットコンロで温めながら行った。
きざみ食、食物アレルギー食も用意していた。

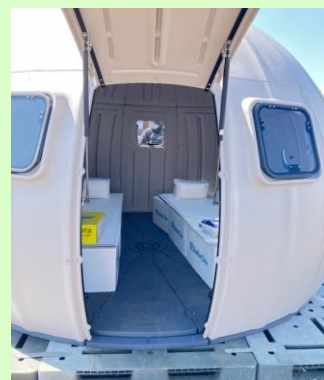


イタリアでは、キッチンカー、食堂、トイレ、シャワー、ベッド、
テントが備蓄されており、発災後短時間でパッケージとして
被災地に届けられ避難所を設営する仕組みができています。

これらの設備は、公費で購入され、各地域のボランティアによって管理・運用し、
プライバシーに配慮され、日常生活に近い環境が整備されている。
災害関連死を0にするという目的がある。

日本では、体育館等にぞこ寝から、段ボールベッド、パーティション等が普及し
始めてはいるが、まだまだ全部というところには至っていない。

展示されていた2人用のドームハウス、シャワーとともに洗濯機も設置。
トイレ等、衛生、食と栄養、睡眠がとれる様に細心の注意をはらっている。



※体験して感じたことは、まず個人・家庭での食糧確保、簡易トイレの準備等自助の力、そして次に互助、
共助になる。災害を自分ごととして考える。他人ごとにならない。

認定特定非営利活動法人長野県NPOセンターを中心に、長野県、県社会福祉協議会、長野県立大、全国からの
参加者総勢約300名で実施。